

次代を担う学生に海技者という職業を紹介 ～ 神戸大学海事科学部オープンキャンパスへの協力・ 同学部 1 年生対象の講演会について ～

日本船主協会は、2008 年 7 月に「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を行っているが、今般、その一環として、神戸大学海事科学部のオープンキャンパスに協力するとともに、同学部 1 年生を対象とした講演会を実施した。

(写真はオープンキャンパスの当協会相談ブースの様様)



1. 神戸大学海事科学部オープンキャンパスへの協力

2012 年 8 月 8 日、神戸大学海事科学部は、高校生とその保護者を対象に、同学部を紹介するオープンキャンパスを開催し、当協会もこれに協力した。



高校生の質問に答える細見船長

今回のオープンキャンパスでは、学部・入試説明会や、実習船「深江丸」等の学内施設見学会が行われ、約 460 名が参加した。

当協会は、大学側が入試や学生生活、卒業後の進路等に関する相談を受けるべく設置した「相談コーナー」にブースを設け、神戸大学海事科学部前身の神戸商船大学 OB である川崎汽船の細見岳良船長が現役船長の視点から相談に応じた。

海事科学部では船員資格を得ることも可能であることから、当協会のブースを訪れた高校生や保護者からは、海運業界の将来性、海技者の業務内容やキャリアパス、待遇等について幅広い質問が寄せられ、細見船長が親身に対応した。

2. 神戸大学海事科学部 1 年生を対象とした講演会

当協会は 2012 年 8 月 9 日、神戸大学海事科学部の 1 年生を対象に、「基幹産業としての海運とそれを担う海技者について」と題し、海運業界の概要や海技者の業務等に関する講演会を開催した。

海事科学部の 1 年生は例年、8 月下旬から 1 カ月間、航海訓練所の練習船による乗船実習に臨むこととなっているが、今回の講演は、乗船実習前に海運業や海技者の仕事について関心を深めてもらう



講演会の模様

べく実施したもので、約 170 人の学生が聴講した。

講演会では、日本船主協会会員船社の海技者が講師を務め、まず、川崎汽船の細見船長から、世界経済と人々の暮らしを支える重要インフラである海運産業の概要や、同産業は各国の経済成長に伴い成長する「成長産業」であることについて、データを交えて紹介し、更に海技者の業務やキャリアパスについても説明した。

続いて、学生と年齢の近い若手海技者(※)が、志望動機、学生時代に準備しておくべきことや就職活動、本船での業務や生活、下船後の休暇の過ごし方や陸上勤務時の業務内容について、自らの体験を基に紹介した。

講演会は、学生の興味が途切れることのないよう、硬軟取り混ぜた内容で進められ、学生達は時折笑顔を交えつつも、真剣な眼差しで「先輩」方の話に耳を傾けていた。



講師を務めた川崎汽船 細見船長、第一中央汽船 関口氏、
日本郵船 永吉氏、商船三井 宮田氏（写真左から）

また、講演後の質疑応答では、「航海訓練所練習船における乗船実習中の自由時間の過ごし方」や「船酔いの克服法」、「入社後に必要とされる英語力」、「本船乗船中の陸上とのプライベートな通信手段」等の質問が出され、講師が具体例を交えて回答した。

日本船主協会では、今後も船員教育機関と連携しつつ、優秀な日本人海技者確保に向けた活動を継続していく。

(※) 2012年8月9日：神戸大学海事科学部1年生向け講演会の講師一覧
川崎汽船 海事人材グループ政策チーム長 細見岳良 氏（船長）、
第一中央汽船 関口裕哉 二等航海士、
商船三井 宮田隼 三等航海士、日本郵船 永吉優也 三等機関士